

家庭科論文

自ら学び続ける授業の創造

自分の家庭生活を工夫し続ける家庭科授業の創造



I	研究の目的	105
1	研究の背景	105
2	研究の方向	106
II	研究内容	107
1	自分の家庭生活を工夫し続ける家庭科授業とは	107
2	自分の家庭生活を工夫し続ける家庭科授業創造の基本的な考え方	108
III	研究の方法	110
1	研究の手順と方法	110
2	研究計画	110
IV	研究の実際	111
1	実践の立場	111
2	題材「わたしも調理名人Ⅰ～ゆでて食べよう～」における授業実践	111
V	研究の成果と課題	116

本研究は、子どもたちが「自分にもできる。」「自分の家でも実践できる。」という意欲をもてるように、追求していることが自分の家庭生活とつながっていると実感できる授業をめざす。そのために自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿や、学習内容の設定、指導方法の工夫を探っていく。

I 研究の目的

1 研究の背景

核家族化や世帯の小規模化、耐久消費財や外部サービスの普及、既製品購入の一般化など、子どもたちを取り巻く社会は、より便利に、より速くすることに向かって歩んでいる。しかし、一方で、消費活動の簡便化・スピード化による手応えの喪失、段取りをつけ、互いに気遣いながら生活しようとする意欲と力量の希薄化も生み出している。そのようなことから、自分の生活を自分でよりよくしたいという子どもたちの願いは、薄れつつある。

文部科学省が示している「生きる力」とは、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を培うことであるといっている。特に、確かな学力については、知識や技能だけでなく、思考力や表現力、判断力などの要素で支えられている。

全国的・国際的な学力調査によると、今の子どもたちに必要なものは、知識、理解・技能だけでなく、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力も大事にして、確かな学力を育むことが大事である。

家庭科では、今回の改訂で加わった体験的な活動を通すことや家庭生活への関心を高めることで、「家族からしてもらう自分」から「家族とともにする自分」「家族のためにする自分」に気づき、学習した後で「学習したことを生かしたい。」「自分にも家族の一員としてできることが広がった。」などの実践的な態度へのつながりを期待されている。

本校では、平成12年より問題解決能力として考える思考力・判断力・表現力を「生活を工夫する力」としておき、一覧表に表し具体化した。また、平成15年より、生活を創意工夫する喜びや楽しさを味わうことができるような学習内容設定に取り組んできた。

その結果、思考力・判断力・表現力である「生活を工夫する力」を発揮している子どもの姿を、発達特性に応じて具体化することができた。また、思考力・



判断力・表現力を培えるような学習内容を設定し、それを効果的に促す指導方法を具体化することができた。一方で、思考力・判断力・表現力や知識、技能の他にも、子ども自身が主体的に生活にかかわる気持ちをもつことが大事である。そのためには、自分の工夫が生活をよりよくすることにつながっているという実感をもつことである。実感をもつことで、子どもは、もっとよくなりたいという思い、願いをもち、自分の家庭生活に応じた工夫をする意欲をもち続けることができる。

このようなことから、子ども自身が、自分の家庭生活を工夫するよさを実感できるために、「自分の家庭生活をもっとよくしたい。」という気持ちをもてる学びを展開することが大事であると考えます。

2 研究の方向

これまでの研究では、子どもたちが日常生活で得た生活経験（「生活的概念」）を科学的な見方・考え方（「科学的概念」）に高める際に、発揮される思考力・判断力・表現力を「生活を工夫する力」としておき、一覧表（表1）に表し具体化した。また、平成15年からは、子どもが「分かった」「できた」と実感できることが大事であると考え、子どもが工夫するよさを見付ける際に手がかりとなる観点を想定し、それを含んだ学習内容設定に取り組んできた。

本研究は、意欲面から切り込む。

その結果、思考力・判断力・表現力を発揮している子どもの姿を具体化し、高学年の発達特性に応じた学習内容を設定することができた。また、経済性や安全性など、追求の手がかりとなる観点を明らかにし、それを含んだ学習内容を設定することができた。さらに、授業を充実させる指導方法も工夫することができた。（図1）

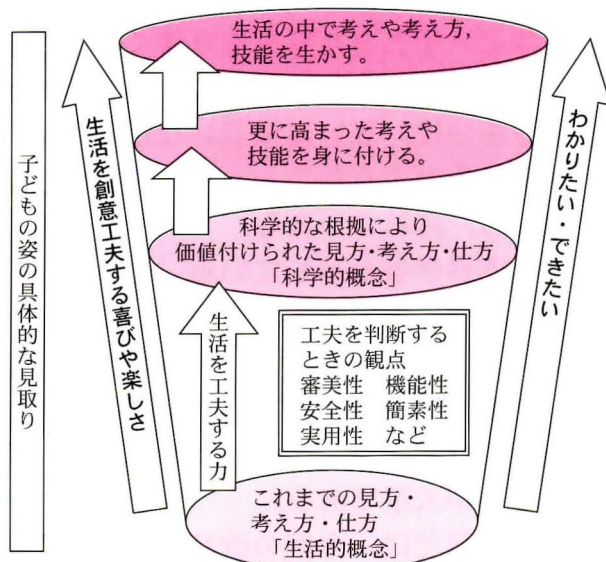
本研究では、前年度までの研究を引き継ぎながら、子どもたちが自分の課題を調べる学習に取り組む中で、家庭生活を工夫するよさを感じ、自分の家庭生活をよりよくしようとする授業にしていきたいと考える。

日頃の子どもたちの様子を見てみると、家庭科の学習では、調理や製作の経験など、家庭生活で行われていることを体験するおもしろさに、興味・関心をもつことが多い。しかし、体験するおもしろさだけでなく、自分の家庭生活を工夫することに大きな意義を感じ、進んでよりよい家庭生活にしよう工夫し続ける態度を育てることができるとするには、学習していることが、自分の家庭生活の仕組みを理解したり、生かしたりすることにつながっていることを実感することが大切である。

そこで、本研究をすすめるに当たっては、まず、意欲的に工夫するよさを感じている子どもの姿を分析して、各過程や内容項目における具体的な姿を明らかにする。次に、問題を追求する必要感を感じて、家庭生活とのつながりを意識した学習内容を検討し、修正しながら、新しく設定していく。そして、その妥当性を検討することで、知識や技能、「生活を工夫する力」の発達特性が一層明確になる。また、そのような授業をより一層効果的にするために、指導方法についても充実させていきたい。このようなことから、研究主題を次のように設定した。

【表1 生活を工夫する力の一覧表】

	5年生	6年生
比較	○対比○類比	○多様な観点 ○見通しと効率性
関係付け	○類型化○抽象化	○多様な観点 ○観念的、未知のもの
推量	○推測○推論	○類推
置換	○数量化○適切な方法の選択○対象を広げて	

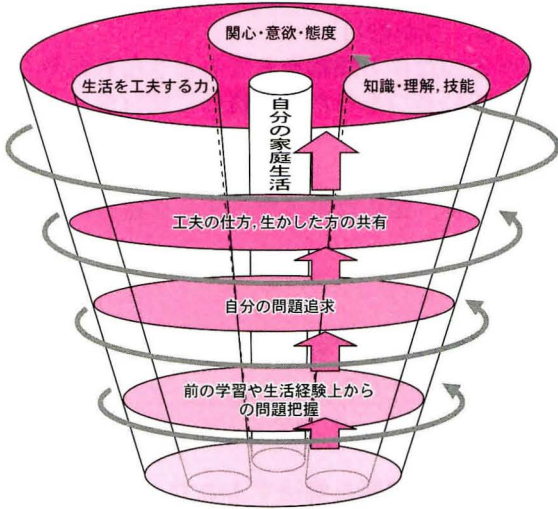


自分の家庭生活を工夫し続ける家庭科授業の創造

Ⅱ 研究の内容

1 自分の家庭生活を工夫し続ける家庭科授業とは

(1) 自分の家庭生活を工夫し続けるとは

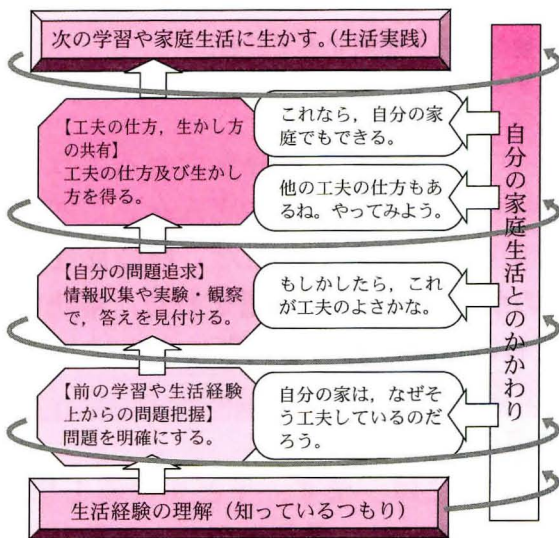


【図2 自分の家庭生活を工夫し続けるとは】

ことである。なお、自分の家庭生活を工夫し続ける姿は、授業の過程に見られる姿と、結果として身に付けた姿の両方を含む。

本校家庭科では、自分の家庭生活を工夫し続けるために必要な資質・能力として、「関心・意欲・態度」「生活を工夫する力（思考力・判断力・表現力）」「知識・理解、技能」の3つを設定している。「生活を工夫する力」と「知識・理解、技能」は、学習を進めるごとに広がりや深まりが出てくる。「関心・意欲・態度」は、学習が進む中で、「生活を工夫する力」や「知識・理解、技能」と関連し合いながら高まっていく。（図2）これらのことは、自分の家庭生活に必要なものを見通して工夫し続けることから、**自分の家庭生活が軸**となる。それは、学習していることがやがていかす場としてつながっていることを感じ、よりよくしようと意欲をもつことへとつながる。

(2) 自分の家庭生活を工夫し続ける授業とは



【図3 自分の家庭生活を工夫し続ける授業とは】

家庭科は、学習対象である家庭生活を追求する中で、仕組みを理解したり、家族を中心とした人間関係などを感じたりして、自分の家庭生活に生かして、実践することを目指している。

自分の家庭生活とは、現在の家庭生活を把握し、よりよくするための意志決定を行い、実践する場である。すなわち、自分と家庭生活との関係や価値を概念化し、適切な生活実践力を身に付ける場である。**自分の家庭生活を工夫し続けるとは**、いかす場となる家庭生活における自分のよりよい姿を想定し、追求したり、生かしたりすること

家庭科の学習における**自分の家庭生活を工夫し続ける授業とは**、問題解決学習の中で、家庭生活の営みの意味を追求する中で、**自分の家庭生活を工夫し続けている姿が現れる授業**である。

そのような授業が展開されるためには、自分の家庭生活とのつながりを感じ、「自分にもできる。」「学んだことが役立つ。」という実感できるような授業であることが大事である。

また、子どもは、友達との学び合いの中で、生活の工夫が多様にあることに気付いたり、教師とのかかわりによって、生活経験の中

自分の家庭生活を軸にして、工夫していくことが学習と家庭生活をつなげる。

工夫し続ける姿が現れる授業を目指す。

に問題があることに気付いたりして、自分の家庭生活を工夫する意義を感じる。そこで、各過程での家庭生活を工夫し続けようとする具体的な子どもの姿を次のようにとらえた。

◎は、本研究で子どもの姿として現れると改めてとらえなおしたものである。

【前の学習や生活経験からの問題把握の段階（みつめる、つかむ）】

- ・ 学習前の生活経験の理解に対し、新しい価値へとつながる問題をもてるようなものや人との出会いがある導入を取り入れる。そこから、知っているつもりだった自分に気付き、よりよい家庭生活への目標をもち、学習への意欲が芽生える。

〔みつめる〕

- 自分の生活経験の中に、今まで感じていなかったり、知らなかったりする仕組みがあることに気付く子ども。
- ◎ 自分の家庭生活の中から、問題を見い出す子ども。

〔つかむ〕

- 学級全体での話し合いの中で、共通する問題を見付ける子ども。
- ◎ 自分の家庭生活をよりよくするための課題を見付ける子ども。

【自分の問題追求の段階（見通す、追求する）】

- ・ 実験や観察、インタビューなど様々な方法を通して、問題を解決する中で、自分なりの答えを見い出す。それには、自分の家庭での様子からも情報収集する。さらに、実際に自分でやってみることで実感することができる。

〔見通す〕

- ◎ 学習後の自分の姿（できるようになりたい姿）を想定する子ども。
- 自分の課題を解決するために、解決方法を見通す子ども。

〔追求する〕

- ◎ 自分で立てた計画に基づいて、実験や観察など意欲的に一人調べをする子ども。
- グループでの追求していく中で、自分の考えを進んで話したり、友達の考えのよさを見付けたりする子ども。
- ◎ 家族へのインタビューなど必要な資料を進んで収集する子ども。

【工夫の仕方を共有し、生かし方を得る段階（まとめる、生かす）】

- ・ 情報交換をする中で、自分の家庭生活への生かし方を明らかにしていき、自分の家庭生活で実践する態度を身に付け、次の学習へも生かされる。

〔まとめる〕

- 他の人の課題とその解決の結果について、興味深く聞く子ども。
- 自分が調べたことと、他の人が調べたことを比較したり、関係付けたりして考えることができる子ども。

〔生かす〕

- ◎ 分かったことの中から、自分の家庭生活に必要なものを選択する子ども。
- ◎ 分かったことを自分の家庭生活に生かそうとする子ども。
- 実践する際に、分かったことを更に工夫しようとする子ども。

子どもが追求する工夫とは、「家族がやっていることを自分もできるようになりたい。」と願って取り組む技能面での工夫もあり、「この工夫のどんなところがいいのか調べたい。」というような疑問を追求する工夫もある。ただ、技能面を追い求めるだけでなく、「なぜ、工夫されているのか。」といった問題をもち、解決するために必要な技能を身に付けたいという子どもの意識の流れを大事にする。

2 自分の家庭生活を工夫し続ける家庭科授業創造の基本的な考え方

(1) 自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿の設定

自分の家庭生活を工夫し続ける授業を展開するには、まず、子どもの姿を想定し、授業を通して子どもの姿を分析する。想定する際には、学習過程ごとと取り扱う内容項目ごとに表れる子どもの姿という次の2つの視点からとらえていく。家庭科で

は、内容項目ごとに子どもの活動が異なり、子どもの姿も異なってくる。つまり、学習過程での子どもの姿は共通して表れるが、内容項目によって子どもの姿は、異なって現れる。よって、この2つの視点から子どもの姿をとらえると子どもの姿が明確になる。さらに、授業を行う際には、複数の内容項目を組み合わせる行うことから、授業する題材ごとに表れる子どもの姿も異なる。

【各学習過程で表れる子どもの姿の設定】

〔子どもの姿の想定〕

- 1 家庭生活の中にある、仕組みに疑問をもち、解決の見通しを説明できる姿
- 2 自分なりの力で問題追求し、説明できる姿
- 3 互いの考えを交換する中で得たことを基に、家庭生活への生かし方を説明できる姿

〔分析の視点〕

- ① 当面の課題ができるかどうかの気付き
- ② 今行っていることと学習の全体的な流れの位置付けやつながりへの気付き
- ③ 問題と家庭生活とのつながりの気付き
- ④ 自分が行ったことへの達成感、感動

【内容項目ごとに表れる子どもの姿の設定】

〔子どもの姿の想定〕

第5学年題材「ゆでて食べよう」

- 1 自分たちでゆでる方法を考えながら調理をする姿
- 2 卵のゆで方を基に野菜のゆで方を説明できる姿
- 3 食品に応じた調理法を説明できる姿 等

〔分析の視点〕

- ① 調理する過程の楽しさ
- ② 調理する方法を応用する喜び
- ③ 他の内容項目との関連に気付く
- ④ 作ることによる自分自身や家庭の独自性の認識
- ⑤ 作られた物にこめられた気持ち

【2つの視点からとらえた自分の家庭生活を工夫し続ける姿とその基となる力】

	自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿	関心・意欲・態度	生活を工夫する力	知識・理解、技能
みつめる つかむ 見通す	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の家の様子に関心をもつ。 ○ 実態から追求したいことを明確にすることができる。 ○ 自分の課題について、追求の要点を絞ることができる。 ○ 追求する課題の解決を見通すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ できそうにない。(過①) ○ できると思っていたんだけどなあ。(過①) ○ 自分の家ではどんな工夫をしているんだろう。(過③、内③・④) ○ 何か間違っていたのかな。(過①) ○ 何を調べたらいいだろう。(過②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの様子から問題を推し量る。 ○ 個人の問題を関係付けて、共通問題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な理由に気付く。 ○ 自分の実態から課題を見い出す。
追求する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な情報を取捨選択できる。 ○ 追求していることとこれまでの学習や他の学習とつなげることができる。 ○ 調べた情報をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べ活動をどうしたらいいのかわからない。(過①) ○ これ(資源)をこんなことに使っているのかな。(過②・③、内②) ○ 方法はこれしかないのかな。(過②、内①) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調べる内容を推量する。 ○ 調べる内容や方法を比較する。 ○ 情報を比較、関係付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕方を見付ける。 ○ 調べていることと資源との関係を見付ける。
まとめる 生活化への意欲付け	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の調べたことと自分の調べたことを比較・関係付けできる。 ○ 自分で実践できる。 ○ 自分の家庭生活に置き換えて考えることができる。 ○ 自分の家庭での生かし方が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ こんな方法があるのか。(過④、内①) ○ この方法は、自分の考えとつながっている。(過②) ○ ぼくにもできたぞ。(過④、内①) ○ みんなの考えをまとめると、一つの流れが見えてきたぞ。(過②) ○ 自分の家に合う方法はどれか。(過③、内④) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分かったことから、自分の家庭生活での生かし方を推し量る。 ○ 友達の情報と比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他のこととの関係付ける。 ○ 自分の家庭生活に必要な方法を見付ける。

このように、具体的な子どもの姿を学習過程と取り扱う内容項目から分析する中で、細かく想定することができる。また、工夫し続けようとする意欲は、「関心・意欲、態度」において、「生活を工夫する力」や「知識・理解、技能」と関連し合っ

(2) 自分の家庭生活を工夫し続ける学習内容

本校家庭科では、学習内容は、子どもの発達特性や授業における学びの姿から内容を精選している。本研究では、先の2つの視点から分析し、子ども自身が学ぶ価値があると実感できるような、個に応じた学習内容を設定していく。設定に当たっては、前研究で培った学習内容を基に実践しながら、子どもが自分の家庭生活を工夫し続けようとする姿を見取る中で修正していく。

(3) 自分の家庭生活を工夫し続けるための指導方法

学習の意欲の高まり	学習して「分かった」「できた」ところ	自分の家庭生活と結びついているところ
1 2 3 4	(自由記述)	(自由記述)

【表1 自己評価シート】

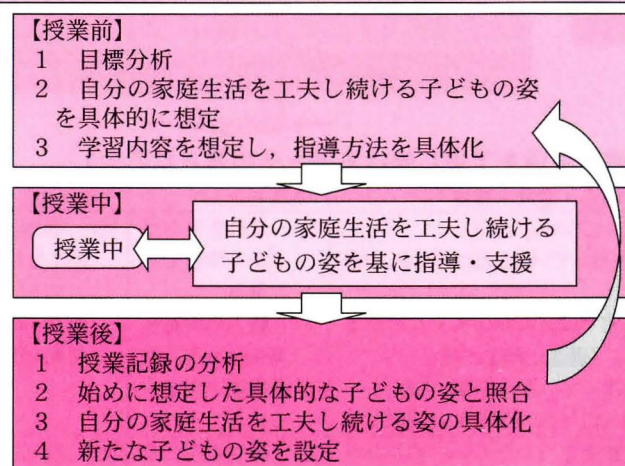
自己評価シートは、毎回自分の意識の高まりと学習と家庭生活がどのように結びついているのかを振り返るものである。

自分の家庭生活を工夫し続けるためには、題材や学習過程に応じた個への指導方法も工夫する。

学習形態や評価などの指導方法は、学習過程や内容項目の特徴に応じて考えていく必要がある。今年度の見取りは、自己評価シート等で行う。自

Ⅲ 研究の方法

1 研究の手順と方法



【図4 研究の手順】

研究をすすめるに当たっては、まず、授業前に題材の目標分析を行い、よりよい家庭生活へと工夫し続ける姿を具体的に想定する。次に、前研究で設定した学習内容に沿って実践を進め、子ども一人一人がよりよい家庭生活へと工夫し続ける子どもの姿を基に見取っていく。その結果、よりよい家庭生活へと工夫し続ける子どもについては、それに至った要因を分析する。一方で、そうでない子どもについては、何が不足しているのかを判断し、新たに必要な学習内容を設定したり、指導方法を変更したりしていく。そうすることで、一人一人がよりよい家庭生活へと追求し続ける姿を発揮できると考える。そして、授業前に設定した学習内容を改善していく。

2 研究計画

3年の研究期間の見通しは、次のとおりである。1年次は、研究の基本的な考え方の構築と自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿を探っていく。2年次は、前年の研究を基に、自分の家庭生活を工夫し続けることのできる学習内容の考え方を構築し、設定していく。3年次は、自分の家庭生活を工夫し続けることができる学ばせ方や評価の在り方などの指導方法を具体化していく。

	1年次	2年次	3年次
子どもの姿			
どんな内容			
どのような学ばせ方			
どのような見取り			
中心に取り上げる内容項目	食生活、住生活	衣、家族・家庭生活	消費生活

IV 研究の実際

1 実践の立場

〔実践の基本的な立場〕

食生活の学習において、子どもが家庭生活とのつながりを感じ、「自分にもできた。」「学習したことを家庭生活中で生かしたい。」と実感をもつことのできる授業にするために、それぞれの過程で自ら家庭生活を工夫し続ける子どもの姿を想定し、その姿になるために、必要な学習内容と指導方法での実践を通して、その姿を明確にする。

〔検証の視点〕

- ① 自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿は想定していたものと合致していたか。
- ② 設定した学習内容と指導方法は妥当であったか。

〔検証の方法〕

- 授業中の発言内容や子どもたちのつぶやき、活動の様子などの記録とその結果の分析（工夫し続けている姿を明らかにする。）
- 意識調査の分析（子どもの意識が授業前と授業後でどのように変化したのか、授業中のどこで関心・意欲・態度が高まり、自ら家庭生活を工夫し続けようとするのか。）

2 題材「わたしも調理名人Ⅰ～ゆでて食べよう～」における授業実践

(1) 題材の目標

関心・意欲・態度	生活を工夫する力	知識・理解、技能
自分の食生活を見つめ、調理することのよさに関心をもち、作る楽しさや食べる喜びを味わうことができる。	ゆでたときの食品の変化の違いを分類したり、食品の持つ栄養的な特徴とゆでる調理法を関係付けたり家庭生活と結びつけたりしながら、食品の種類に応じたゆで方を見い出すことができる。	卵や野菜の栄養的な特徴やゆでる調理法の特性に気付き、安全で衛生的な調理器具の取扱いや分量に気をつけながら、食品を洗ったり、切ったり、ゆでたりできる。

(2) 子どもの姿の想定にむけて

【自分の家庭生活を工夫し続ける姿】

子どもが家庭生活とのかかわりについても考慮しながらゆでることによる食品の変化や食品に応じたゆで方を見出し、学習したことを家庭生活中に生かそうとしている姿。

【これまでみられた子どもの姿】

- ・ 食に関する学習内容は関心が高い。
- ・ 食品の種類に応じたゆで方を考えながら追求することよりも食べることを目的としているような姿が見られる子どもがいた。
- ・ みそ汁を作る学習（第6学年の学習内容）において、本題材で学習したことが生かせていない子どもがいる。
- ・ 野菜をゆでる学習において子どもたちの意欲が下がる傾向が見られた。

【本題材を展開するに当たっての留意点】

- ・ これまで以上に自分の家庭で生かしたいという思いにつながるような姿を求める学習内容を想定する。
- ・ 学習過程において、子どもが自分の家庭生活を工夫し続けている姿をさらに詳しく想定し、その姿が見られるような手立てを講じる。

以上のことから、本題材における内容項目独自に表れる子どもの姿を次のように想定した。（学習過程で現れる姿はP 108 参照）

【内容項目独自に表れると考える子どもの姿の想定】

- 1 自分たちでゆでる方法を考えながら調理をする姿
- 2 卵のゆで方を基に野菜のゆで方を説明できる姿
- 3 食品に応じた調理法を考える姿
- 4 無駄のないように調理する姿
- 5 自分の家庭の様子に応じた調理をする姿
- 6 作り手の気持ちがこもっていることを実感している姿



- ① 調理する過程の楽しさ(1)
- ② 調理する方法を応用する喜び(2)
- ③ 他の内容項目との関連に気付く(3, 4)
- ④ 作ることによる自分自身や家庭の独自性の認識(5)
- ⑤ 作られた物にこもる気持ち(6)

(3) 学習内容の設定

想定した子どもの姿を基に学習内容を設定するが、本題材において子どもたちが自分の家庭生活を工夫し続けるためには、子どもたち一人一人が家庭生活との関わりをこれまで以上に意識し、これなら自分の家でもできそうだという思いをもつような内容にする必要がある。そのため本校で設定してきた学習内容を以下のように一部変更したり重点化を図ったりするようにした。

〔旧プラン〕

過程	主な学習活動
みつめる	1 ゆでる調理法について学習する。① ・ 卵をよく食べる理由について考える。
つかむ	2 ゆで卵の試し作りをする(計画・実習)。② ・ 計画を立てる。 時間は決めていたもののその他のことについては細かいところまで決めていなかった。
見通す	・ 試しにゆでる ゆでるとどのように変化するのか考えさせた。
追求する	3 試し作りの結果を基に卵を自分の好みに応じてゆでる方法を追求する。② ・ 追求する。
	4 分かったことをまとめる。①
	5 ゆで野菜の試し作りをする(計画・実習)。② ・ 計画を立てる グループで追求する野菜を1種類にしていた。
まとめる・生活化への意欲付け	6 試し作りの結果を基に野菜をおいしくゆでる方法を追求する。② 7 分かったことを情報交換して野菜のゆで方についてまとめる。② ・ 情報交換する。 発表会形式で情報を交換していた。

〔新プラン〕

主な学習活動
1 ゆでる調理法について学習する。① ・ 学習後の自分の姿を想定させ、温野菜サラダの完成図を描く活動に変更した。(食品をどのようにゆでたいのかも書き込ませた。)
2 ゆで卵の試し作りをする(計画・実習)。② ・ 計画を立てる。 自分の好みに応じた(家庭で食べている)ゆで卵はどのような状態であるのか一人一人に意識させて計画を立てさせる。 ・ ゆでる前にゆで方の工夫につながる点について確認させる。(時間、水の量、火加減など)
・ 試しにゆでる。 想定していた(家庭で食べている)ゆで卵の状態とも比較させる。
3 試し作りの結果を基に卵を自分の好みに応じてゆでる方法を追求する。② ・ 追求する。 家庭ではどのようにゆでているのかについても考えさせる。(野菜の時も同様)
4 分かったことをまとめる。①
5 ゆで野菜の試し作りをする(計画・実習)。② ・ 計画を立てる。 温野菜サラダとして調理したい食品を選択させる。 野菜の種類に応じてゆで方が異なることを実感させるために、葉菜類または花菜類、根菜類1種類ずつ選択させる。
6 試し作りの結果を基に野菜をおいしくゆでる方法を追求する。②
7 分かったことを情報交換して野菜のゆで方についてまとめる。② ・ 情報交換する。 野菜の種類ごとにゆで方が異なることに気付きやすいように表を用いてまとめる。
課題追求にかかる時間がこれまでよりも短縮できる(2時間)ことから、今回新たに以下の内容を挿入する。 ・ 学習したことを生かして温野菜サラダを作る計画を立てる。 ・ 温野菜サラダを作り、これまでの学習を振り返る。

これらのことを踏まえて、本題材における子どもが自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿を以下のように想定した。

[本題における自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿]

※ゴシック体は特に自分の家庭生活を結びつけて考えているところ、……は、家庭生活を工夫し続けている姿と関連すること

時	家庭生活を工夫し続ける子どもの姿	関心・意欲・態度	生活を工夫する力	知識・理解、技能
1	○ これまでの生活経験から、様々な調理法があることに気付いている。 ○ 自分の好みに応じたゆで卵を作るために手順を考えることができる。	・ 調理法には色々あるんだな。内① ・ この学習の最後には温野菜サラダを作ることができるようにになりたいな。家でも作って家族に食べてほしいな。内⑤	・ ゆでる調理法といためる調理法を比較する。 ・ どうすれば好みに応じたゆで卵を作ることができるのか推し量る。	・ 料理から様々な調理法について知る ④ガスコンロの安全な取扱 ④包丁の取扱 ④準備や調理の手順 ④片付け方
2 3	○ ゆでることによる卵の変化を説明できる。 ○ 自分の家庭で食べているゆで卵とも比較して考えている。	・ 生と何が違うのだろう過① ・ どのようにゆでるといいかな。過① 内① ・ 家ではどうやってゆでているのだろう。過①②内④	・ 生の状態とゆでた後の卵の状態を比較する。	・ ゆでることによって卵が凝固する。 ・ 強火・中火・弱火
4 5	○ ゆでる時間や火加減、水の量などどのようにすればよいか家庭生活での様子を基に考えている。 ○ 追求の仕方についてこれまでの学習経験を基に推し量る。 ○ 追求結果と事実と関係付けながらまとめている。 ○ 他のグループが追求したことを結び付けて、自分の家庭に応じたゆで卵の作り方を考えている。 ○ ゆで卵の学習で学んだことをいかして野菜のゆで方を考えている。	・ 家では～くらいだから、ゆでる時間や火加減は～かな。過① ・ うまくいった(いかなかった)原因は○○だと思うよ。内① ・ 調べたい条件だけを変えたらいいと思うよ。内② ・ ゆで時間を変えて追求したら、自分の好みに合うのは○分だった。過②③内①④ ・ 自分の家で作る時には、～にすればいいな。内② ・ ゆで卵の作り方を基にして野菜をゆでる方法を考えよう。過② 内①② ・ 温野菜サラダに入れる○○のゆで方を学ぼう。過③内④	・ これまでの生活経験から作り方を推し量る。 ・ 予想したゆで卵と試しにゆでた卵を比較する。 ・ 他のグループが調べたことと結び付けて自分の家庭に合うゆで卵を作る計画を立てる。 ・ ゆで卵の学習を基に試し作りでの野菜のゆで方を推し量る。	・ 条件を制御して追求する。 ・ <u>卵はゆでる時間が長いほど凝固する。</u> ・ <u>水からゆでる。</u> ・ <u>水の量は卵がかぶるくらい。</u> ・ <u>ゆでた後は、水につけるとよい。</u> ・ <u>火加減で調理時間が変わる。</u> ・ <u>塩を入れてゆでると卵が割れても白身が出にくい。</u> ④切り方 ・ <u>土の上にはできる・土の中にできる野菜のゆで方。</u> ・ <u>野菜はゆでる時間が長いほど柔らかくなる。</u> ・ 根菜類は水から切ってゆでると短時間でゆであがる。ゆであがったら水にはつけない。
6 7	○ 生の野菜と比較し、色や香りなどがどのように変化したのかまとめている。 ○ 想定していた状態と家庭で食べている状態とを比較し、うまくいかない原因を考えている。 ○ ゆで卵の学習を基にして野菜のゆで方の追求内容を考えることができる。	・ ゆで卵のときと結果が違う。過① 内②③ ・ ゆでると同じような変化をする野菜があるぞ。 ・ 家で食べているようにゆで上がらなかったのは～が原因ではないかな。 ・ ゆで卵のときは～だったから、野菜の場合は～なのではないかな。過②内②④	・ ゆで卵との共通点、相違点に気付く。 ・ 葉菜類と根菜類の違いを比較する。 ・ <u>想定と異なる原因を推し量る。</u> ・ ゆで卵の学習から追求することを推し量る。	・ 葉菜類は沸騰して塩を入れてからゆでると色がきれいになる。短時間でゆで上げて水につけて絞る。 ④追求したことをまとめる。
8 9	○ 葉菜類と根菜類とはゆで方が異なることに気付く。 ○ 家庭でのゆで方の工夫と結びつけて考えている。 ○ 追求したことを誰にでも分かるように説明することができる。	・ 葉菜類はゆでるとかさが減るぞ。過②内②③ ・ お母さんに聞いたら～に注意してゆでるとうまくいくと言っていたよ。 ・ ゆでる時間は野菜の種類や切り方によって変わってくるんだな。内①④	・ 事実と追求方法インタビュー内容とを関係付けて考える。 ・ 葉菜類のゆで方と根菜類のゆで方を類型化する。	・ <u>食品に応じたゆで方</u> ・ 安全に調理器具を使いながら、卵や野菜をゆでることができる。 ・ ドレッシング作り ④計量の仕方
10	○ 他のグループが追求したことを家庭での様子も合わせてどのようにゆでたらよいのか自分の考えをまとめることができる。	・ みんなの考えをまとめると野菜のゆで方が分かりそうだ。過② ・ 野菜の種類によるゆで方は他の野菜にも当てはまりそうだ。内③	・ 課題に応じた結果と野菜の種類に応じた結果家庭での様子を結び付けてゆで方を考えている。	
11 12	○ 学習したことをいかして、温野菜サラダをつくることができる。 ○ 家庭生活中で生かす方法を考えている。	・ これで自分も温野菜サラダを作ることができるぞ。過③ 内①②③④ ・ 学習したことをいかして家庭で温野菜サラダを作ろう。過③ 内①②③④⑤⑥	・ 自分の家族の好みを考えた温野菜サラダを作る方法を推し量る。	

(4) 実際 (第6時～第12時)

過程	主な学習活動	子どもたちのつぶやき												
	<p>1 ゆで卵の作り方の作り方についてまとめる。</p> <p>ゆでる時間を変えることによって、自分の好みに応じたゆで卵を作ることができるな。おばあちゃんには、半熟のゆで卵を作ってあげよう。</p>	<p>〈ゆで卵の作り方〉</p> <table border="1"> <tr><td>入れるタイミング</td><td>水から</td></tr> <tr><td>ゆでる時間</td><td>8分ぐらい</td></tr> <tr><td>火加減</td><td>中火</td></tr> <tr><td>水の量</td><td>つかうぐらい</td></tr> <tr><td>ゆでた後</td><td>塩</td></tr> <tr><td>ゆでた後</td><td>冷やす</td></tr> </table> <p>〈温野菜のサラダの完成予想図〉</p>	入れるタイミング	水から	ゆでる時間	8分ぐらい	火加減	中火	水の量	つかうぐらい	ゆでた後	塩	ゆでた後	冷やす
入れるタイミング	水から													
ゆでる時間	8分ぐらい													
火加減	中火													
水の量	つかうぐらい													
ゆでた後	塩													
ゆでた後	冷やす													
みつめる	<p>2 学習問題を確認する。</p> <p>野菜をゆでるとどのように変化するのだろうか。</p>	<p>ゆで卵の作り方は野菜をゆでるときにも生かすことができそうだね。</p> <p>キャベツはサクサクと歯ごたえがあるようにゆでたいな。じゃがいもはほくほくゆでた方がおいしいよね。</p>												
つかむ	<p>3 野菜をゆでる計画を立てる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ ジャガイモ</p> <p>入れるタイミング: 水から ゆでる時間: 10分 火加減: 強火・中火 水の量: つかうぐらい ゆでた後: 水につける</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③ キャベツ</p> <p>入れるタイミング: 水から ゆでる時間: 8分 火加減: 強火・中火 水の量: つかうぐらい ゆでた後: 水につける</p> </div> </div>	<p>T 土の上でできる野菜と土の中でできる野菜を1種類ずつ選びましょう。</p> <p>C ゆで野菜サラダに入れるキャベツとじゃがいもにしよう。</p> <p>T それぞれの野菜をゆでる計画を立てましょう。</p> <p>C ジャガイモは卵よりも固そうだから卵よりも長くゆでよう。</p> <p>C キャベツは、柔らかそうだから、卵をゆでる時間よりも短くゆでよう。</p> <p>T みんなの家庭ではどのようにゆでているのかな。</p>												
見通す	<p>じゃがいも ほくほくしたじゃがいもをゆでたいと思っていた。外側はほくほくしているけれど中は固いまだ。水っぽい味がする。</p> <p>キャベツ サクサクとゆでたかったのに、どろどろになってしまった。ゆでる前より小さくなったぞ。</p>	<p>卵をゆでると固くなるけど、野菜をゆでると色が変化し、柔らかくなった。でも、じゃがいもは中が固いし、キャベツはどろどろになってしまった。家で食べているのとは違うな。なぜだろう。</p>												
追求する	<p>4 追求したいことを決める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>ゆでる時間</p> <p>じゃがいも 入れるタイミング: 水から 大きさ: 10等分 ゆでた後: 水につけない ゆでる時間: 8分, 16分</p> <p>入れるタイミング</p> <p>じゃがいも 入れるタイミング: 水から, 沸騰後 大きさ: 10等分 ゆでた後: 水につけない ゆでる時間: 8分</p> <p>ゆでた後</p> <p>じゃがいも 入れるタイミング: 水から 大きさ: 10等分 ゆでた後: 水につけない・つける ゆでる時間: 8分, 16分</p> <p>大きさ</p> <p>じゃがいも 入れるタイミング: 水から 大きさ: 2等分・4等分・8等分 ゆでた後: 水につけない ゆでる時間: 10分</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>キャベツ 入れるタイミング: お湯から 大きさ: そのまま ゆでた後: 水につけて絞る ゆでる時間: 1分, 3分</p> <p>キャベツ 入れるタイミング: 水から, 沸騰後 大きさ: そのまま ゆでた後: 水につけて絞る ゆでる時間: 2分</p> <p>キャベツ 入れるタイミング: 沸騰後 大きさ: そのまま ゆでた後: 水につけて絞る・水につけない ゆでる時間: 1分, 3分</p> <p>キャベツ 入れるタイミング: 沸騰後 大きさ: 2等分・4等分・8等分 ゆでた後: 水につけて絞る ゆでる時間: 2分</p> </div> </div>	<p>じゃがいもの中が固かったのも、キャベツがどろどろになったのもゆでる時間が長すぎたからだと思うよ。お母さんはどれぐらいゆでているのかな。</p> <p>お母さんが、野菜は固さによって入れるタイミングが違うと言っていたよ。うまくいかなかったのはそのことが原因だと思うよ。</p> <p>じゃがいもが水っぽかったのは、ゆでた後で水につけたからなのではないかな。キャベツはどちらでも同じだと思うよ。お母さんはどうやっているのかな。</p> <p>じゃがいもが固かったのは、丸ごとゆでたからだと思うよ。そう言えば、この前家で食べたカレーのじゃがいもは小さく切ってた。</p>												

過程	主 な 学 習 活 動	子 ども た ち の つ ぶ や き																								
	<p>5 追求したことを発表する。</p> <table border="1"> <tr> <td>土の上にできる野菜</td> <td>キャベツ</td> <td>沸騰後</td> <td>短時間</td> <td>水につけて絞る</td> <td>そのまま</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ブロッコリー</td> <td>沸騰後 タイミング</td> <td>短時間 ゆでる時間</td> <td>水につけて絞る ゆでた後</td> <td>食べやすく切る 大きさ</td> </tr> <tr> <td>土の中にできる野菜</td> <td>じゃがいも</td> <td>水から</td> <td>卵より長く</td> <td>そのまま</td> <td>薄いほど早い</td> </tr> <tr> <td></td> <td>にんじん</td> <td>水から</td> <td>卵より長く</td> <td>そのまま</td> <td>薄いほど早い</td> </tr> </table> <p>野菜の種類によってゆで方が違うことが分かったぞ。 お母さんは野菜の種類によってゆで方を変えていたんだな。 ぼくも早く温野菜サラダを作ってみたいな。</p>	土の上にできる野菜	キャベツ	沸騰後	短時間	水につけて絞る	そのまま		ブロッコリー	沸騰後 タイミング	短時間 ゆでる時間	水につけて絞る ゆでた後	食べやすく切る 大きさ	土の中にできる野菜	じゃがいも	水から	卵より長く	そのまま	薄いほど早い		にんじん	水から	卵より長く	そのまま	薄いほど早い	<p>教師の働きかけ</p> <p>教師が、発表したことを左図のような表にまとめることで、食品に応じてゆで方が異なることを深く理解します。</p> <p>追求時も、家庭生活ではどうかを常に意識させるようにします。終末段階でも子どもたちが学習したことを家庭生活とつなげて考えることができるように、ゆで方のコツを家庭生活と結び付けて考えている子どもを価値付けして家庭での様子に目を向けさせまるようにします。</p>
土の上にできる野菜	キャベツ	沸騰後	短時間	水につけて絞る	そのまま																					
	ブロッコリー	沸騰後 タイミング	短時間 ゆでる時間	水につけて絞る ゆでた後	食べやすく切る 大きさ																					
土の中にできる野菜	じゃがいも	水から	卵より長く	そのまま	薄いほど早い																					
	にんじん	水から	卵より長く	そのまま	薄いほど早い																					
まとめる	<p>6 温野菜サラダを作る計画を立てる。</p> <p>レタスは、キャベツと同じ種類だから、ゆでると縮むことを考えました。</p> <p>ドレッシングは野菜をゆでている間に作ると効率的だね。お母さんに作り方を聞いてくるね。</p> <p>じゃがいもは皮をむくのに時間がかかるから、卵をゆでた後は、短時間でゆであがるブロッコリーとレタスからゆでよう。</p>	<p>T サラダ作りの計画を立てます。何を決めたらいいですか。</p> <p>C 何をゆでるか決めよう。これまで学習したもの以外の野菜もゆでたいな。</p> <p>T 他にはありませんか。</p> <p>C 分量を決めよう。一人分を決めてから全体の量を決めよう。</p> <p>C 今度はゆでるものが多いので、効率的に調理しないとイケないよ。短時間で作るにはどうすればいいかな。</p> <p>C どんなドレッシングを作ろうかな。</p> <p>C これまでの学習を生かしてじゃがいもをほくほくに、キャベツはサクサクに、卵を半熟でゆでよう。うまいったら家でも作りたいな。</p>																								
生活化への意欲付け	<p>7 温野菜サラダを作る。</p> <p>学習したことを生かして温野菜サラダを作ることができました。おいしいと感じたことが、家の人にも作ってあげたいという家庭への実践意欲につながっています。</p>	<p>【振り返りカード】</p>																								

【考察】

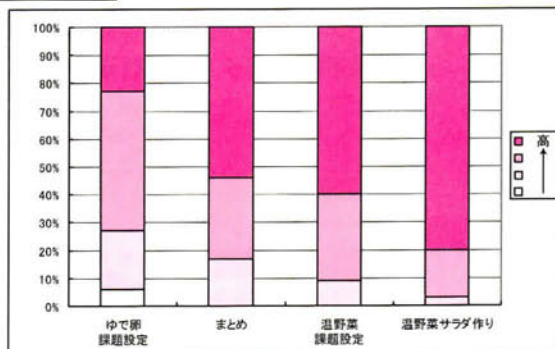
- 自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿は想定していたものと合致していたか
- 温野菜サラダの完成予想図を子どもたちに描かせることで、学習への見通しをもたせることができると想定した。実際は完成予想図に卵や野菜をどのようにゆでたいのかという点についても書かせることで、いつも家庭で食べているゆで卵やゆで野菜の状態を意識させることができ、学習への見通しをもたせることができた。
 - ゆで方の工夫につながる観点を基に試し作りの計画を具体的に立てさせることで、子どもたちは課題を設定しやすいのではないかと想定していたが、特に野菜をゆでる学習において「野菜が卵よりも固そう(柔らかそう)だからゆでる時間が長く(短く)なりそうだ。」というように追求方法を考える際の根拠を明らかにすることができた。葉菜類、花菜類と根菜類のゆで方を同時に追求させることで、食品に応じてゆで方が異なることを実感できるのではないかと想定したが、この点についても子

どもたちは自分の家庭生活とつなげて野菜のゆで方をとらえており、想定どおりの姿が見られた。

- ・ 学習したことを理解すると子どもはそのことを生かして調理するであろうと想定していたが、温野菜サラダの計画を立てる際には、学習したことを基に他の野菜のゆで方まで推し量り、ゆでる時間だけでなく、ゆでる順序も考える姿が見られた。実際に調理したところ、グループによっては野菜が想定していたものより固いなどの結果が出たところもあった。しかし、子どもたちは「もう少し薄く切れば、もしくはゆでる時間を長くすればおいしく茹で上がりそうだ。」と考えており、本題材の目標が達成できたと考える。子どもたちは、学習したことを生かして家庭で作ってみたいという思いを強くいただいていた。

○ 設定した学習内容と指導方法は妥当であったか。

- ・ 毎時間の自己評価シート（P 6 参照）を分析してみると、ゆで卵の課題設定までは学習の意欲の高まりが低い子どもが27%ほど見られた。教師が想定していた姿と子どもの思いにずれが生じていたと考えられる。このことから、導入時にゆでる調理を生かした様々な料理について話し合い、最終的に作る料理を想定させる必要があると考える。



【各学習過程における意欲の高まり】

- ・ 終末時には子どもの意欲が高まっている。これは、ゆで卵の追求をさせる際に「家庭ではどのようにゆでているのか」といった解決の手がかりになるような視点を与えたり、家庭とつなげて考えることを意識させたことで、毎時間終末時に自分の姿を振り返り、家庭生活にいかせそうなことを考えさせる時間を設けたりしたためであると思われる。これまで、ゆで卵の学習をいかして野菜のゆで方について考える学習で、子どもたちの意欲が下がる傾向が見られたものの、本実践においては、意欲が高いまま学習を進めることができた。
- ・ ゆで卵の学習後、家庭で実践した子どもたちが多かった。家庭で実践できたことが野菜をゆでる学習への意欲につながり、温野菜サラダの実践へとつながった。食品に応じたゆで方が異なることを理解し、自分たちで作ることができたという喜びを得た子どもたちは、家庭で作って家族に食べさせたいという思いを強くもったようである。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- めざす授業づくりの基本的な考え方として授業中に現れる子どもたちの姿を想定し、実践、分析することで、学習中における子どもたちの家庭生活を工夫し続けている姿を明らかにすることができた。
- 実践、検証を通して食生活・住生活における自分の家庭生活を工夫し続ける子どもの姿を明らかにすることができた。

2 研究の課題

- 今年度明らかになった手順や方法を生かして他の内容項目における子どもの姿も明らかにする必要がある。
- 自分の家庭生活を工夫し続ける姿を基に、学びがいのある学習内容を設定する必要がある。

【参考文献】

「家庭科の21世紀プラン」	日本家庭科教育学会編著	(1997年)	家政教育社)
「家庭科に学ぶ生活論と教育論」	乗本秀樹著	(2002年)	家政教育社)
「教育実践力をつける 家庭科教育法」	多々納道子・福田公子編著	(2005年)	大学教育出版)
「小学校学習指導要領解説 家庭編」		(1999年)	文部省)